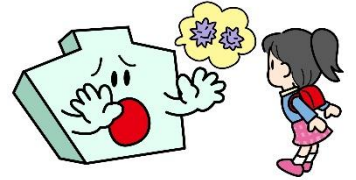


出席停止となる感染症一覧表

- ・一覧表にある感染症にかかったときは、法律で定められた「出席停止」となり、「欠席」にはなりません。
- ・病院にかかり医師の診断を受け、家庭から連絡を受けた日から出席停止扱いとします。
- ・感染症の診断を受けた場合は速やかに学校に連絡し、医師の許可があるまで家庭で安静にしましょう。



○第1種学校感染症

| 病名 | 出席停止期間 |
|--|---|
| エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、鳥インフルエンザ(H5N1)、重症急性呼吸器症候群(SARS)、 新型コロナウイルス感染症 | 治癒するまで出席停止 ※新型コロナウイルス感染症において ・濃厚接触者である場合や、疑いのある場合も出席停止とする。 ・感染の予防のための休みも出席停止とする。 |

○第2種学校感染症

| 病名 | 症状 | 潜伏期間 | 出席停止期間 |
|-----------------|-------------------------------------|--------|---|
| インフルエンザ | 急な発熱、頭痛、悪寒、関節痛、全身倦怠感、咳、鼻水、のどの痛み | 1~3日 | 発症後5日経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで |
| 百日咳 | コンコンという短く激しい咳が続く | 1~2週間 | 特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで |
| 麻疹(はしか) | 発熱、咳、鼻水、目やに、結膜充血、頬の内側にコプリック班(白点) | 10~12日 | 解熱後3日を経過するまで |
| 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) | 耳下腺の腫れ(片側~両側の顎の後ろが大きく腫れて痛む)、発熱、嚥下困難 | 1~2週間 | 耳下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで |
| 風しん(3日はしか) | 発熱、発疹、耳の後ろ・首・脇の下などの腫れ、咳、結膜の充血 | 2~3週間 | 発疹が消失するまで |
| 水痘(みずぼうそう) | 発疹→水疱→かさぶた・かゆみ | 2~3週間 | 全ての発疹が痂皮化するまで |
| 咽頭結膜熱 | 高熱、のどの痛み、結膜の充血、首のリンパ節の腫脹 | 5~7日 | 主要症状が消失した後、2日を経過するまで |
| 結核 | 初期は自覚症状なし、X線で発見、発熱、咳、たん、疲労感、体重減少 | 1~2ヶ月 | 病状により感染のおそれがないと診断されるまで |
| 髄膜炎菌性髄膜炎 | 高熱、頭痛、嘔吐、頸部硬直 | 2~5日 | |

○第3種学校感染症

| 病名 | | 出席停止期間 | | |
|---------------------------|-----------------|---|--|--------|
| コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフス | | 病状により感染のおそれがないと診断されるまで | | |
| 病名 | 症状 | 潜伏期間 | 出席停止期間 | |
| 腸管出血性大腸菌感染症(O-157) | 激しい腹痛、下痢、嘔吐、吐き気 | 3~8日 | 病状により感染のおそれがないと診断されるまで 病院にかかった際に、いつから登校してよいか必ず確認してください。 | |
| 流行性角結膜炎 | 眼の異物感、目やに、結膜の充血 | 5~7日 | | |
| 急性出血性結膜炎 | 眼の痛みや充血・出血 | 1~2日 | | |
| その他の感染症 | 溶連菌感染症 | 高熱、発疹、扁桃の発赤や腫れ、のどの痛み、いちご舌 | | 2~5日 |
| | ウイルス性肝炎 | 発熱、鼻水、咳、喘鳴、呼吸困難 | | 2~5日 |
| | 手足口病 | 手足の水疱・発熱 | | 2~7日 |
| | 伝染性紅斑(リンゴ病) | 頬の赤み・手足の発赤 | | 10~20日 |
| | ヘルパンギーナ | 発熱、のどの痛み | | 2~7日 |
| マイコプラズマ感染症 | 発熱、咳、のどの痛み | 2~3週間 | | |
| 感染性胃腸炎(ウイルス性胃腸炎・流行性嘔吐下痢症) | 嘔吐、吐き気、下痢、発熱、腹痛 | 1~3日 | | |
| ※アタマジラミ | 頭髪部のかゆみ | 出席停止の必要はありませんが、担任にはご連絡ください。医師の診断にしたがい治療をしてください。 | | |
| ※伝染性軟属腫(水いぼ) | 水疱 | | | |
| ※伝染性膿痂疹(とびひ) | 皮膚に化膿性の湿疹 | | | |